

沖縄県外来種対策行動計画に基づく  
ハヤトゲフシアリ 防除計画

令和4年3月

沖 縄 県

## 1 背景と目的

ハヤトゲフシアリは、南ヨーロッパ原産のヤマアリ亜科のアリ類で、2017年に名古屋港で確認されたのち、東京、大阪、博多などで侵入が確認されています。沖縄県内では、2020年2月に環境省が実施している調査において、那覇市明治橋から那覇空港に至る国道332・331号線の植栽部分で初めて確認されました。

沖縄県では、県内に定着し、生態系への影響が大きく重点的に駆除等の防除を実施する必要がある外来種を「重点対策種」として指定しています。ハヤトゲフシアリが確認された分布域は限られており、まだ県内から排除できる段階にあると考えられます。本防除方針は、ハヤトゲフシアリによる生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものです。

## 2 概要

### (1) 和名等

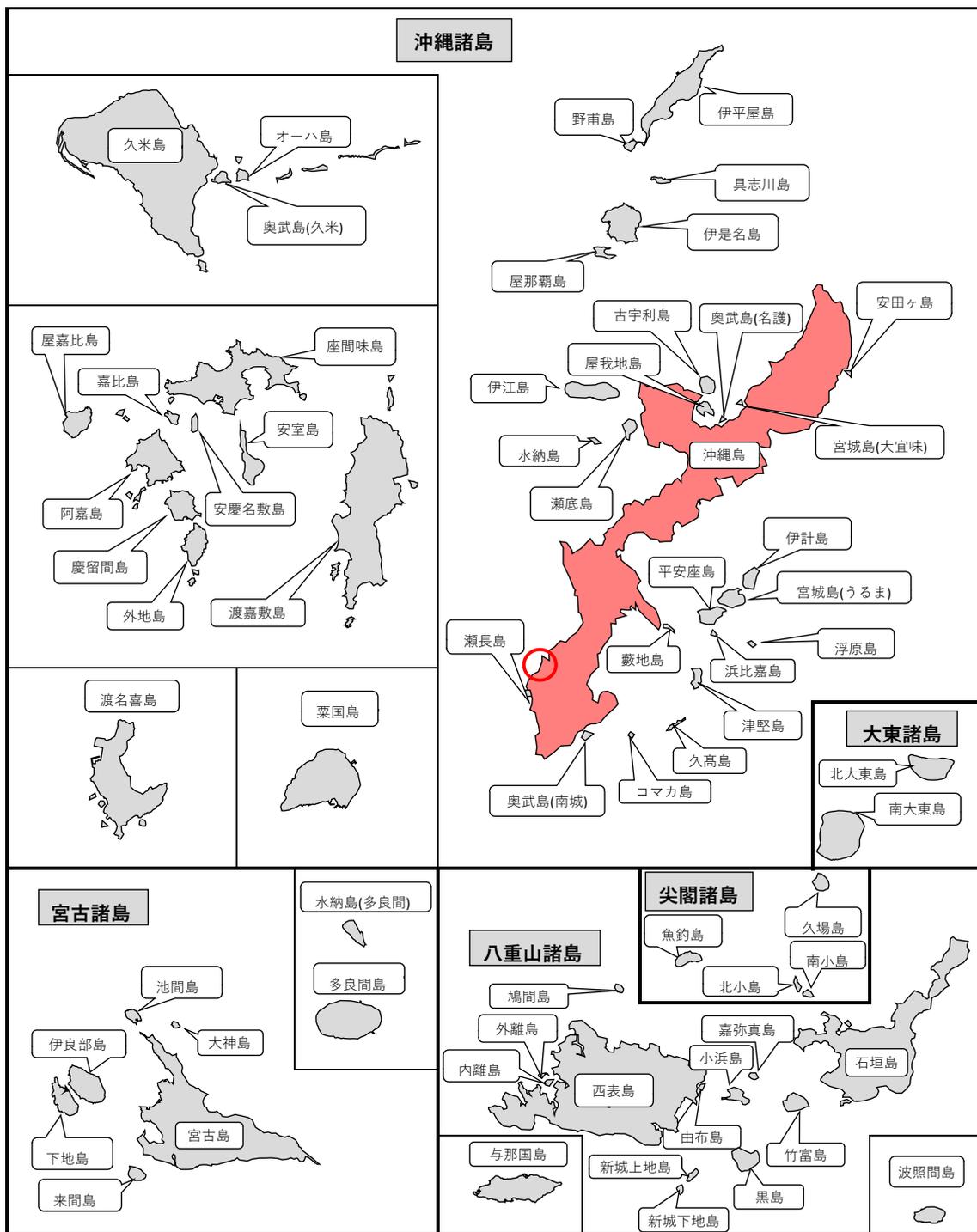
ハチ目アリ科ヤマアリ亜科

ハヤトゲフシアリ（学名 *Lepisiota frauenfeldi*）

### (2) 分布

原産地：南ヨーロッパ

県内の分布確認状況：沖縄島（那覇空港付近の国道及び那覇新港）



ハヤトゲフシアリの生息が確認されている島

赤色で塗った島は生息が確認されている島を示す。面積の広い沖縄島は、主な生息域を赤丸で示す。

(3) 形態・生態

体長 2.5～4 mm 程度のヤマアリ亜科のアリです。11 節からなる長い触角を持ち、中胸部が細くくびれ、前伸腹節後背部に 1 対の刺状突起を持ちます。県内で確認されている個体群の体色は全身が黒色のものが多いですが、他の地域で確認されている個体群では頭部や胸部、腹柄、脚が赤いことが知られており、体色には変異が見られます。また、素早い動きも特徴の一つとなりますが、県内にすでに定着しているヒゲナガアメイロアリと動きや大きさがよく似ています。



写真提供： 沖縄科学技術大学院大学 (OIST) OKEON 美ら森プロジェクト

餌を運ぶハヤトゲフシアリ

3 指定の状況

特定外来生物	○
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	—
日本の侵略的外来種ワースト 100	—
世界の侵略的外来種ワースト 100	—

#### 4 生態系等への影響

侵略性等に関する知見は少ないものの、アルゼンチンアリと同程度の侵略性があると指摘されています。多女王性でスーパーコロニーを形成し高い増殖性を持ち、また、他種のアリ類を襲って捕食することや、昆虫などの小動物を襲うことなどが知られています。

#### 5 目標

沖縄県外来種対策行動計画に基づく防除目標のカテゴリー

→ **目標 A 県内全域からの根絶** (那覇)

##### ◎ 那覇からの排除及び分布拡大の防止

現在ハヤトゲフシアリが確認されている場所は、那覇市内の那覇空港付近の国道及び那覇新港の2箇所に限られています。ハヤトゲフシアリの分布拡大による生態系等への影響を防ぐため、両定着エリアでの根絶と他地域への拡散防止を目標にします。

また、県内の未確認地域での早期発見のため、港湾や空港周辺でのモニタリングを行い、ハヤトゲフシアリの分布拡大の防止に努めます。

#### 6 対策の方針

##### (1) 初期防除（発見地域からの排除）

現在ハヤトゲフシアリが確認されている地域では、既に沖縄科学技術大学院大学、琉球大学、那覇市や環境省などによる防除の取組が進められています。これら先行する取組と連携して進めます。発見地点周辺及び侵入リスクの高い場所において監視体制の強化を図り、新たに発見された場合には関係機関と連携して迅速に防除を実施します。

##### (2) 早期発見（県内他地域での侵入状況の確認）

ハヤトゲフシアリが確認されている場所は、県外では名古屋港の飛島埠頭及び鍋田埠頭、東京港の青海埠頭、博多港の箱崎埠頭など港湾周辺となります。沖縄県内では、発見地点の周辺には港湾、コンテナヤードに加え、空港、米軍や自衛隊などの施設もあります。物流の拠点である港湾を主な対象としつつ、空港、米軍や自衛

隊施設の周辺においても、ハヤトゲフシアリの侵入がないか継続的にモニタリングを実施し、早期発見に努めます。

**(3) 情報集約**

関係者と連携して効果的な防除を実施するため、ハヤトゲフシアリに関する情報を収集し、関係者と情報共有する場を設けるなど情報集約に努めます。

目標カテゴリーA：県内全域からの根絶（那覇）

目標：那覇からの排除及び分布拡大の防止

対策の方針	実施項目	期間	実施地域	実施内容
初期防除（発見地域からの排除）	ハヤトゲフシアリの排除	短期	発見地点周辺	発見地域での防除に関わる関係者と連携を図る。また、発見地点周辺及び侵入リスクの高い場所において監視体制の強化を図り、発見された場合には関係機関と連携し迅速に防除を実施する。
早期発見（県内他地域での侵入状況の確認）	侵入状況の調査	短期	県内各地の港湾、空港等	侵入リスクの高い場所（港湾、空港等）で調査（採集法、目視調査等）を実施し、侵入を監視する。
情報集約	情報収集と情報共有	短期～長期	-	ハヤトゲフシアリに関する情報を収集し、関係者と情報共有する場を設けるなど情報集約を図る。

短期は概ね3年目までの期間、長期は概ね4年目以降の期間

## 7 実施体制

効果的かつ効率的な対策のため、以下のような体制を目指し、関係機関と連携します。沖縄県以外の連携が必要な関係機関については（ ）で示します。

- 初期防除：沖縄県環境部、(環境省、施設管理者、研究機関等)
- 早期発見：沖縄県環境部、(環境省、施設管理者、研究機関等)
- 情報集約：沖縄県環境部、(環境省、研究機関等、その他防除実施者)

## 8 防除方法

海外では、グアムやオーストラリアなどでベイト剤や殺虫剤のスプレー散布によって根絶に成功しています。国内ではベイト剤や液剤散布による防除が開始されており、県内では、ベイト剤による防除が開始されています。

## 9 防除事例の紹介

### (1) 国道 331 号・332 号沿い（那覇市）

県内でハヤトゲフシアリが確認されている那覇市の国道 331 号・332 号沿いでは、成長阻害剤を含む砂糖水やミルワームをベイトとした防除が 2020 年 8 月から開始されています。



写真提供： 沖縄科学技術大学院大学 (OIST)  
OKEON 美ら森プロジェクト

### (2) 他県での事例

国内でハヤトゲフシアリが確認されている名古屋港の飛島埠頭及び鍋田埠頭、東京港の青海埠頭、博多港の箱崎埠頭などでは、ベイト剤や液剤を使用した防除が進められています。

## 10 防除計画の見直し

当該防除計画は 3 年目に中間評価を行い、5 年目に見直しを行います。なお、対策上必要があると認められる場合は、随時見直しを行うものとします。